

# 魅力発信！えひめ農業

令和6年5月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、5月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 目次



目次	1
5月のトピックス5選	3
青年農業者の食育活動を支援	3
今治地域鳥獣害防止対策協議会でニホンザル対策を協議	3
さといも栽培省力化に向けた機械による土入れ作業の実演	4
真穴地区でマルドリ栽培に係る意見交換会を開催	4
「つるむらさき×CoCo 壺番屋」コラボを支援	5
■東予地方局地域農業育成室	6
アスパラガス未利用部位を活用したお茶を製造・販売	6
■東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班	6
インフルエンサーでうま茶の魅力を広く配信	6
■東予地方局産地戦略推進室	7
JA周桑との普及ビジョン推進連携会議を開催	7
■今治支局地域農業育成室	7
さといも種芋の安定生産に向け県外大手メーカーと連携した実証に着手	7
社会福祉法人による「シャインマスカット」の栽培を支援	8
「ひめの凜」新規認定栽培者講習会を開催	8
■今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	9
上浦地区再編復旧園の定植用大苗を仮植	9
■今治支局産地戦略推進室	9
地元生産加工組織がせとうちみなとマルシェに参加	9
「紅プリンセス」のせん定を指導	10
メロンの新たな仕立て方の実証試験を開始	10
■中予地方局地域農業育成室	11
ユーカリ日本一を目指し生産対策について協議	11
かんきつの労働力確保に「お手伝いプロジェクト」の導入を検討	11
■中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班	12
令和6年産はだか麦及び小麦の収穫が始まる	12
「媛かぐや」の産地化に向け今年度の活動を協議	12
■中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班	13
新規就農者を町広報誌で紹介	13
雑穀の生産振興や伝承活動を協議	13
■中予地方局産地戦略推進室	14
「紅プリンセス」の高品質化実証試験を開始	14
■南予地方局地域農業育成室	14
農業後継者が家族経営協定を締結	14



高級和菓子向け果実の生産推進について .....	15
■南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班 .....	15
鬼北地区の認定農業者へ「スリランカ農業人材受け入れ」について情報提供 .....	15
■南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班 .....	16
「ひめの凜」栽培研修会を開催 .....	16
農作業の省力化に向けたドローンによる水田除草剤の散布実証 .....	16
■八幡浜地方局地域農業育成室 大洲農業指導班 .....	17
カキ「太秋」の安定生産に向けて調査を開始 .....	17
就農に向けたスケジュールを確認 .....	17
いちご部会員が天敵の防除効果を確認 .....	18
内子町青年農業者、遊休農地再生プロジェクトを始動！今年はイノシシ対策も万全に .....	18
■八幡浜地方局地域農業育成室 西予農業指導班 .....	19
西予市の若手女性農業者組織活動拡大中！ .....	19
かんきつ生産者がアシストスーツを着用体験 .....	19
■八幡浜地方局産地戦略推進室 .....	20
フィンガーライムの重要害虫を有力天敵で半減に成功！ .....	20
■農産園芸課 企画調整グループ .....	20
普及指導員が若手職員とのコミュニケーションや育成手法を学ぶ研修を実施 .....	20
■農産園芸課 高度普及推進グループ .....	21
第2回さといも優良種芋増殖技術講習会を開催 .....	21
麦の採種ほ審査（Ⅱ期）の実施 .....	21



## 5月のトピックス5選

標 題	青年農業者の食育活動を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年5月15日	場所	四国中央市内	
指導対象	四国中央青年農業者協議会	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	<p>○同協議会は、子どもたち自身が食料を生産することにより、農業の役割や重要性等について学び、農業に対する理解を深める食育活動を行っている。</p> <p>○当班では、同協議会が市立北保育園の園児を対象に取り組むサツマイモ栽培の技術指導を通じて、食育活動を支援した。</p> <p>○協議会員は、サツマイモ苗の植付けが容易にできるようマルチに植え穴を開け、苗を配置する等の準備作業を行った後、園児に苗の植えつけ方を丁寧に説明した。</p>			
結果と今後	<p>○元気いっぱいの園児は、協議会員や関係者から手ほどきを受けながら賑やかに作業を行い、泥まみれになりながら1時間ほどで千本の苗を植え付けた。</p> <p>○今後、協議会員が中心になってサツマイモの栽培管理を行うとともに、秋には園児を対象に収穫体験会を開催し、収穫の楽しさを知る機会を設けることとしている。</p>			
				
			<p>左：植付け方法を教わる園児</p> <p>右：共同の植付け作業</p>	


標 題	今治地域鳥獣害防止対策協議会でニホンザル対策を協議		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年5月22日	場所	JA おちいまばり営農事業本部	
指導対象	なし生産者（1人）	連携機関	岡山理科大学	
普及指導内容	<p>○近年、今治地域ではニホンザルによる作物被害が増加しているため、今治地域鳥獣害防止対策協議会を開催し、対策となる手法について協議した。</p> <p>○当室では、今治特産のなし園での被害状況を把握するためにセンサーカメラを設置しており、被害防止に向けて電柵の設置と防護ネットの補強を提案した。</p> <p>○岡山理科大学の小野文子教授からは、「高周波発生装置を併用したニホンザルの被害対策」と題したビデオ講演があり、参加者は防止効果について理解を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○今後、2haのなしが栽培されている今治市古谷で、当協議会でニホンザル対策モデル園を設置し、電柵設置や防護ネットの補強と併せて、大学等関係機関と連携して高周波発生装置を用いた防止対策を実施する。</p>			
				
高周波発生装置の説明			なし園にセンサーカメラを設置	


標 題	さといも栽培省力化に向けた機械による土入れ作業の実演		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年5月27日	場所	県農林水産研究所	
指導対象	さといも栽培農家（17人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○さといも栽培農家や関係機関を対象に、乗用型土入れ作業機の実演会を開催。</p> <p>○土入れ作業は収量増加や品質向上に欠かせないが、従来の歩行型管理機では労働負担が大きいため、経営規模の拡大に伴う省力化が課題となっている。</p> <p>○当日は、農林水産研究所が従来の仕様を改良したロータリーカルチ（中耕機）を装備したもので実演し、従来の歩行型管理機との作業性や土入れ程度を比較した。</p>			
結果と今後	<p>○乗用型土入れ作業機は、従来の歩行型に比べ、作業効率の良さと土入れ作業の仕上がりが良好で、参加者は導入に向けて関心を示していた。</p> <p>○引き続き、さといも省力化栽培技術の普及と生産拡大に取り組む。</p>			
				<p>左：乗用型土入れ作業機の実演 右：土入れ後のさといも</p>


標 題	真穴地区でマルドリ栽培に係る意見交換会を開催		機関名	八幡浜市局地域農業育成室
年月日	令和6年5月8日	場所	真穴選果場会議室	
指導対象	真穴マルドリ導入農家（31人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○温州みかんのマルドリ栽培を普及拡大するため、真穴共選で意見交換会を開催した。</p> <p>○当室では気象ロボットを活用し、土壌水分と果実肥大、糖度の相関や、地温と硝酸態窒素の吸収の相関について実証調査をしており、その経過について報告した。</p> <p>○マルドリによる高品質安定生産を実現しているモデル農家から、10月下旬から液肥を施用することで樹勢回復を図り、安定生産につなげているとの情報提供があった。</p>			
結果と今後	<p>○導入農家は、マルドリ栽培における液肥施用により、これまで以上に収穫後の樹勢回復が図れることを実感していた。</p> <p>○令和6年度から新たに6人がマルドリ栽培に取り組むこととしており、当室では、引き続き、普及拡大に向けて実証調査等に取り組む。</p>			
				<p>左：調査結果報告 右：マルドリ栽培導入農家</p>

標 題	「つるむらさき×CoCo 壺番屋」コラボを支援		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年5月30日	場所	コワーキングスペース UWAJIMA QUEST (宇和島市寿町)	
指導対象	つるむらさき生産者	連携 機関	JA えひめ南、 CoCo 壺番屋宇和島国道56号店	
普及指導 内容	<p>○宇和島市三間町で産地化を推進している「つるむらさき」について、令和6年6月1日（土）から3か月間、同店舗限定で、定番商品のトッピングメニューとして提供することが決定し、マスコミ向けに、JA 組合長や市長、地方局長による試食会を開催した。</p> <p>○当日は、店舗オーナーからコラボに至るまでの経緯を説明後、生産者から本品目の産地状況やこれまでの取り組みについて紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「緑が深く彩りが良い」「真夏に不足しがちな緑黄色野菜を、おいしいカレーとともに地元産品で補えるのは嬉しい」といった意見があった。</p> <p>○今後は、今年4月に制定された「つるむらさきの日（7月26日）」と連動した、新規市場や量販店等への積極的な販促活動に取り組むこととしている。</p>			
				
		<p>左：説明する生産者 右：つるむらさきカレー</p>		

標 題	アスパラガス未利用部位を活用したお茶を製造・販売		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年5月	場所	西条市内	
指導対象	青年農業者（1人）	連携機関	愛媛県立西条農業高等学校、JA周桑	
普及指導内容	<p>○アスパラガスを生産する青年農業者（豊田果歩さん）が新商品「アスパラ茶ん」を製造し、同JA直売所「周ちゃん広場」で販売を開始した。</p> <p>○6次化商品開発については、乾燥による加工商品が長期保存可能で営業許可も得やすいこと等を指導。県補助事業も活用し、西条農業高等学校とも連携しながら行った。</p> <p>○大型商業施設での対面販売、道の駅やスーパーでの販売も決定し、今後も各種イベントに出展しながら、更に販路を拡大していく。</p>			
結果と今後	<p>○豊田さんは『アスパラ茶ん』を通じて、お客さんが直売所に足を運びきっかけになれば嬉しい」と、未利用部位の利活用による所得向上に期待を寄せていた。</p> <p>○当室は、同商品の販促活動や販路拡大とともに、「アスパラ粉末」の利用や商品開発についても支援し、引き続き農業者の6次化の取組みをサポートしていく。</p>			
 <p>「アスパラ茶ん」@550円/15g 「FRUITS WALK」の豊田果歩さん PRチラシ</p>				

標 題	インフルエンサーでうま茶の魅力を広く配信		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年5月24日	場所	四国中央市新宮町	
指導対象	うま茶振興協議会	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○「四国中央市の茶産地（新宮町）の生産者と地域を支える人」をテーマに、著名インフルエンサー（ゆりままん：四国中央市出身）のブログやInstagramを活用し、県内外へ広くお茶の魅力を紹介する情報発信を支援した。</p> <p>○当室は、発信内容について、生産者等が山里の新緑と青空の下で育まれている茶畑や製茶工場からお茶づくりのストーリーを語り、煎茶やかぶせ茶などの違いを紹介することで自分好みの茶を見つけるポイントが分かるものとなるよう提案した。</p>			
結果と今後	<p>○ゆりままんは、急須で茶を淹れたお茶のうま味や香りの魅力と、お茶の製造に携わる様々な方々からのメッセージを、今回を含め5回配信する予定。</p> <p>○また、うま茶のファンを増やすため、生産者による県外への販促を予定しており、ブランド茶「結の霧ひめ」の認知度向上や販路拡大に向けた活動を支援する。</p>			
 <p>急須で淹れるお茶のうま味や香りの魅力</p>				

標 題	JA 周桑との普及ビジョン推進連携会議を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年5月23日	場所	東予地方局第二庁舎	
指導対象	JA 周桑3名	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○今年度の普及ビジョンで実施する実証試験を効率的に進めるため、JA 周桑と打合せ会を開催した。</p> <p>○当室から、いちごでは栽培環境モニタリングデータを活用した単収の向上の実証、メロンでは裂果軽減のための土壌水分管理の把握、花木では「メラレウカ」の葉先枯れ対策と新規有望花木の栽培実証等について説明し、年間計画を協議した。</p> <p>○JA からは、メロンの長期貯蔵による年末需要期への試験販売計画と、花木では生産振興方針について説明があった。</p>			
結果と今後	<p>○メロンについては、年末の試験販売に向けた予備試験として、6月下旬に包装資材を活用した長期貯蔵の実証等を実施する。花木については、事業等を活用した販売促進活動等について連携していくこととなった。</p>			
		<p>写真：JA 周桑担当職員と打ち合わせ</p>		



標 題	さといも種芋の安定生産に向け県外大手メーカーと連携した実証に着手		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年5月17日	場所	生産者ほ場（今治市朝倉上）	
指導対象	さといも生産者（1人）	連携機関	岩谷産業株式会社、伊予農産株式会社	
普及指導内容	<p>○当室では、さといもの優良な種芋を安定的に供給できる体制づくりに向け、低コストで安定的な種芋の増殖法を検討している。</p> <p>○その一環として、種芋（ばれいしょ）に植物ホルモンを添加することで萌芽の抑制効果等がある知見を基に、ホルモンを添加したさといもの親芋から苗を直接採取する育苗法の実用化について、大手ガスメーカーの岩谷産業（株）とガス添加施設の設置等に向けた協議を行った。</p>			
結果と今後	<p>○植物ホルモンを添加した種芋用ばれいしょは、早期出芽及び芽揃いが均一化し、大きさの揃った種芋が多く着生していたことから、さといもでも同様の効果が期待できる。</p> <p>○今後は、優良なさといも種芋の生産体制づくりを目指し、協力企業と実証ほ場の設置等を進めていく。</p>			
				
じゃがいもの収穫調査		収穫調査されたじゃがいも		さといも実証の打合せ



標 題	社会福祉法人による「シャインマスカット」の栽培を支援		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年5月16日	場所	今治市富田	
指導対象	社会福祉法人来島会5人	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○来島会が運営する農場「だんだんファーム」では、ぶどう「シャインマスカット」やかんきつ「甘平」を栽培しており、障がい者の生産活動を支援している。</p> <p>○今回は支援員を対象に「シャインマスカット」の無核化のためのジベレリン処理に加え、開花期前後の新梢管理の注意点とコツについて講習した。</p>			
結果と今後	<p>○来島会では障がい者が作業を理解しやすくするため、巻きひげ切除や副梢管理など細分化して作業に取り組んでいく。</p> <p>○次回は果房の摘粒作業や栽培中の甘平の管理講習を行う。</p>			
				
新梢管理を支援員に説明		新梢管理の方法を学ぶ支援員 「甘平」の管理状況を支援員と確認		



標 題	「ひめの凜」新規認定栽培者講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年4月26日～5月13日	場所	今治市内	
指導対象	認定栽培者（6回184人）	連携機関	JA（おちいまばり、立花）、県農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○今治管内の令和6年度の「ひめの凜」認定栽培者は365人201ha（R5：81人67ha）と昨年に比べ面積で3倍に増加しており、品質維持のために新規栽培者へ基本技術を中心とした留意点等について説明した。</p> <p>○「ひめの凜」は、プレミアムクオリティ品質となることで、収益向上につながることから、猛暑時の水管理や中干など基本技術を徹底することを確認した。</p>			
結果と今後	<p>○7月に水管理の徹底のため、中干講習会を開催する。</p> <p>○新規栽培者にリアルタイム農業普及指導ネットワークを紹介し、40人程度が登録。今後の栽培技術指導に活用する。</p>			
				
新規認定栽培者講習会		栽培のポイントを説明		集落組織でも品種の切り替えが進む



標 題	上浦地区再編復旧園の定植用大苗を仮植		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年5月23・24日	場所	上浦地区再編復旧井口工区	
指導対象	JA 営農指導員等	連携機関	JA おちいまばり、県果樹研究センター、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○JA おちいまばりと地域農業育成室はR5年度から育成している「はれひめ」「愛媛果試第48号」「甘平」「レモン」の苗木をポットからほ場に仮植した。</p> <p>○育苗2年目となり苗木が生長しており、今夏も猛暑が予想されることから高温・乾燥による生育への影響を考慮して地植えで育苗することになり、バックホーとトラクターでポット培土と土壌を混和した後、約2,000本の苗木を移植した。</p> <p>○豪雨災害による園地の再編整備が進んでおり、来春の本ぼへの植え付けに向け、リアルタイム農業普及ネットワークシステムを活用して果樹研究センターや農産園芸課の担当者と状況を共有した。</p>			
結果と今後	○今後は追肥、灌水、樹体管理を的確に行ない、定植に向けて健全な苗を育成し、早期の再編復旧がなされるように栽培指導を継続するとともに、スマート農業体系の構築を実現できるよう援助していく。			
  				
苗木をほ場に仮植		生育状況をネットワークで共有		来春作付け予定地（盛地区）


標 題	地元生産加工組織がせとうちみなとマルシェに参加		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年5月26日	場所	今治市内	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ	連携機関	今治市	
普及指導内容	<p>○今治市内の農業者・加工業者等31事業者で構成する「しまなみみんなのディッシュ」が、農産物・加工品の販売促進を目的に試食販売を行った。</p> <p>○当室は、出店準備や販売促進の支援を行い、今治産の農産物等をPRした。</p>			
結果と今後	<p>○今回は、構成員のうち「しまなみ楽農研究所」1社だけの参加であったが、天候に恵まれ、販売ブースには数多くの来客があり、しまなみ産の加工品を味わっていた。</p> <p>○販売する商品について、過去の販売データや当日の天気予報を参考に選定することを指導し、ジャム14種類（試食販売）とかき氷の販売とした。</p> <p>○今後は、販促の強化と並行して、組織の自走・自立を目指して出店・運営指導を行う。</p>			
 				
しまなみの産品を売り込み			かき氷と柑橘等のジャムを販売	

標 題	「紅プリンセス」のせん定を指導		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年5月17日	場所	今治市玉川町	
指導対象	かんきつ生産者（4人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○管内で「紅プリンセス」を栽培する生産者を対象に、せん定を指導した。</p> <p>○昨年度初着果した樹で、今年の着花状況を確認できたタイミングで実施し、枝が立ち気味になりやすいなど、「紅プリンセス」の特徴に合わせたせん定方法を説明した。</p> <p>○定植後の苗木の管理、新梢の整理方法の他に、造成地で肥料成分が少ない園地では即効性の窒素肥料の施用などを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○今回は栽培マニュアルに沿って切り返しや追い込みせん定によって発育枝を確保しつつ、主枝が開放的な樹形になるように意識したせん定を実施。</p> <p>○しかし「紅プリンセス」は現地での栽培事例がまだ少ないため、果樹研究センター等と情報共有しながら経過観察と栽培指導を進めていく。</p>			
				
		品種に合わせたせん定を指導	立ち枝を処理し開放的な樹形を意識	造成地の苗木を確認



標 題	メロンの新たな仕立て方の実証試験を開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年5月15日	場所	メロン栽培者ハウス（朝倉）	
指導対象	メロン栽培者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○メロンと同じウリ科であるスイカでの先行研究から、地這栽培の方が光合成産物が増加し果実肥大に効果的であると仮説を立てて、地這栽培および従来の仕立て方である半立体栽培の実証試験を生産者のハウスで開始した。</p> <p>○メロン栽培ハウスにおいて、「温度・照度・UV レコーダ」を2台設置し、地這栽培と半立体栽培の気温および照度の測定を5月16日から実施した。</p>			
結果と今後	<p>○直達日射（晴天）と散乱日射（曇天）の違いや半立体栽培での方角（東西南北）の違いによる照度を測定する。</p> <p>○半立体栽培では、照度センサーを子づるの葉の角度にあわせて設置した。</p> <p>○今後、つる長や着果節の葉の大きさ等の生育量および重量や糖度等の果実品質のアナログデータを調査・取得し、センサーで取得した照度等デジタルデータとの相関関係を分析して、地這栽培の有効性を検討する。</p>			
				
		センサー設置状況	設置したセンサー類	生産者への指導



標 題	ユーカリ日本一を目指し生産対策について協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年5月22日	場所	松山市農業指導センター	
指導対象	中予地域ユーカリ生産対策協議会 構成員（8人）	連携 機関	松山市、東温市、JA（松山市、えひめ中央）、県花き研究指導室	
普及指導 内容	<p>○ユーカリの産地拡大を目指し、地方局予算「観賞用ユーカリ産地拡大事業」に係る第1回中予地域ユーカリ生産対策協議会を開催し、樹形改善等の実証ほの設置や技術マニュアルの作成について協議した。</p> <p>○また、松山市農業指導センター内の花木ほ場で、マルバアキグミなど他の花木の導入や産地化に向けて検討した。</p>			
結果と今後	<p>○樹形改善及び排水対策の技術について、継続して実証に取り組む。</p> <p>○新規ユーカリ3品種（パルブラ、アップルボックス、ポポラス）について、地域適応性及び市場評価等を踏まえ推進する2品種を選抜する。</p> <p>○3か年の技術実証成果や新品種等についての栽培技術マニュアルを作成し配布する。</p> <p>○ユーカリをはじめとした花木産地の更なる発展に向けて、関係機関と連携しながら、産地強化に努める。</p>			
				<p>左：実証計画及びマニュアルについて協議</p> <p>右：有望な花木類の特性について研修</p>


標 題	かんきつの労働力確保に「お手伝いプロジェクト」の導入を検討		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年5月29日	場所	JA えひめ中央本所	
指導対象		連携 機関	JA えひめ中央、株式会社 VOCE	
普及指導 内容	<p>○中予地域のかんきつの収穫時期の労働力不足を解消するため、南予地域を中心に展開している有償ボランティア「愛媛お手伝いプロジェクト」の導入に向けた担当者会を開催。</p> <p>○事業を実施している株式会社 VOCE（松山市）から、プロジェクトの仕組みや実績について説明があり、その後、導入にあたってのスケジュールや留意事項等について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○JA えひめ中央では、今年度からモデル地区を設定し8月頃に対象となる生産者を対象とした説明会を開催する計画。</p> <p>○ボランティア受入れ開始時期は10月からとし、同プロジェクトがスムーズに運営できるよう関係機関が一体となって取り組む。</p>			
				<p>左：担当者会で協議</p> <p>右：「愛媛お手伝いプロジェクト」のパンフレット</p>


標 題	令和6年産はだか麦及び小麦の収穫が始まる	機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年5月31日	場所	伊予市、松前町
指導対象	はだか麦生産者（148人） 小麦生産者（46人）	連携機関	JA全農えひめ、JA（松山市、えひめ中央）
普及指導内容	<p>○令和6年産のはだか麦の収穫が5月4日から、小麦の収穫が5月21日から始まった。</p> <p>○伊予地区の麦作付面積は323ha（はだか麦：273ha、小麦50ha）で、伊予地区カントリーエレベーターの荷受数量は、はだか麦が798t（前年比85%）、小麦が99t（前年比57%）の見込み。</p> <p>○主な減収要因として、3月下旬から4月上旬の降雨による充実不足及び赤かび病の発生が考えられる。</p>		
結果と今後	<p>○赤かび病については防除を徹底し、カントリーへの搬入段階で防除の有無を確認するとともに、無防除の出荷物は、荷口を分けて乾燥調製を実施。</p> <p>○等級検査が終了する6月下旬には収量・品質が確定する見込み。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、今年度産の栽培の反省を踏まえ、麦の安定的な生産を推進する。</p>		
		特産のはだか麦収穫（松前町）	



標 題	「媛かぐや」の産地化に向け今年度の活動を協議	機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年5月31日	場所	伊予市農業振興センター
指導対象	「媛かぐや」産地育成推進会議会員（13人）	連携機関	伊予市、松前町、砥部町、JA全農えひめ、JA（松山市、えひめ中央）、県農林水産研究所
普及指導内容	<p>○「媛かぐや」の産地化を目指し、「媛かぐや産地育成事業」（局予算事業）に係る第1回媛かぐや産地育成推進会議を開催し、昨年度までの実績報告及び今年度の実証計画等について協議した。</p> <p>○今年度は、新規に8経営体、約5aで定植予定。生産者数15戸、栽培面積17aに拡大見込み（3戸でセル苗自家育苗を導入）。</p> <p>○また、肥料試験等の実施や、栽培講習会等の開催により、安定的な生産と一次加工業者への出荷ロットを確保する。</p>		
結果と今後	<p>○JA系統販売における一次加工業者（株中温）を介した流通体系の確立を見据え、食品加工業者に原料提供を行うとともに、加工品の商品化を目指す。</p> <p>○引き続き関係機関と連携し、安定生産に係る技術を検証・確立するとともに、円滑な流通加工体制を築くことで、伊予地域を「媛かぐや」のモデル産地として育成する。</p>		
			<p>左：今年度の取組みを協議</p> <p>右：媛かぐやのセル苗自家育苗指導</p>


標 題	新規就農者を町広報誌で紹介		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年5月2日	場所	新規就農者ハウス	
指導対象	新規就農者（5人）	連携機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導内容	<p>○新規就農者の定着促進のため、地域住民にも彼らが頑張っている姿を広く知ってもらえるよう、町の広報誌に紹介記事を掲載。</p> <p>○当班では、今年度に新規就農した5人を取材し、就農に至った経緯や経営内容、今後の抱負について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者の紹介や就農候補者に対する研修、支援制度等は、「広報久万高原」6月号に掲載。</p> <p>○また、愛媛CATVの「キラキラ農業」でも放映することとしており、地域農業を担う新規就農者の活躍を広くPRする。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">左：地域農業を担う新規就農者 右：主力品目であるトマト苗の管理作業</p>				

標 題	雑穀の生産振興や伝承活動を協議		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年5月29日	場所	JA松山市久万経済センター	
指導対象	久万高原ブランドづくり推進会議 構成員（9人）	連携機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導内容	<p>○雑穀栽培の振興を目的とした「久万高原地域食材伝承事業」（局予算事業）に係る推進会議を開催し、今年度の生産振興や伝承活動、商品開発等について協議。</p> <p>○今年度は、新規に6人（約15a）が定植予定で、生産者数は23人、栽培面積は245aに拡大する見込み。</p> <p>○活動計画として、雑穀の栽培管理の実証ほ設置や雑穀セミナー、町内学校での伝承講座の開催、新たな商品開発・販売に取り組む。</p>			
結果と今後	<p>○生産振興を図るため、実証ほ（地とうきび、たかきび、こきび）の設置による技術普及に加えて、新規栽培者への種苗配布と栽培希望者の掘り起しを行う。</p> <p>○また、雑穀の詰め合わせ商品の開発や給食への提供、新たな地域食材（青大豆等）の活用について会議で提案があり、今後、検討を進める。</p> <p>○雑穀の需要創出や生産拡大を図ることで、地域農業の活性化に努める。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">左：今年度の事業計画を協議 右：久万高原町の地域食材（青大豆）</p>				



標 題	「紅プリンセス」の高品質化実証試験を開始		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年5月23日	場所	松山市大浦	
指導対象	「紅プリンセス」生産者（2人）	連携機関	JA えひめ中央、県果樹研究センター、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○紅プリンセス生産支援事業による「紅プリンセス」の高品質安定生産を目指した実証試験を開始。</p> <p>○実証内容は、管内6園地です上がり等、生理障害果の発生軽減に取り組む。</p> <p>○生理障害果は、樹勢の強い主枝や亜主枝との養分競合が発生要因と推察されることから、誘引処理による柔らかい樹づくりを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○主枝角度が80度前後の調査樹を、60度前後になるまでマイカ線で誘引した。</p> <p>○亜主枝も水平に誘引することで、樹高は低くなり、縦長から横長の柔らかい樹形となった。</p> <p>○今後は、誘引による生理障害果の発生状況や果実品質等を継続的に調査する。</p>			
			<p>左：誘引前 （主枝角度：約80度）</p> <p>右：誘引後 （主枝角度：約60度）</p>	



標 題	農業後継者が家族経営協定を締結		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年5月13日	場所	宇和島市役所	
指導対象	協定締結農家（2人）	連携機関	宇和島市、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当室では、農業者が家族の意思を尊重し経営や暮らしの目標について話し合い、取り決めを行う家族経営協定を推進している。</p> <p>○このほど、家族経営協定書の作成等を支援していた宇和島市の後継者が親子間で新たに協定を締結した。</p> <p>○市役所で行われた締結式では、市農業委員会会長等関係者の立会のもと協定書への調印が行われ、「家族で協力し合い農業経営の改善に取り組むとともに、地域に貢献したい」とのコメントがあった。</p>			
結果と今後	<p>○締結を契機に、親子連名で果樹の補助事業に取り組みたいとの意向があったことから、継続支援する。</p> <p>○今回の締結により、宇和島市の締結農家数は87戸となり、引き続き関係機関と連携し、家族経営協定の新規締結及び継続締結の支援を行う。</p>			
			<p>左：調印式</p> <p>右：関係機関からの激励</p>	



標 題	高級和菓子向け果実の生産推進について	機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年5月17日	場所	JA えひめ南宇和島営農センター
指導対象	高級和菓子用果実の生産者（5人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○（株）源吉兆庵の高級菓子向けのかき・びわ生産に係る関係者が一堂に会し、今年の実産や今後の方針等について協議した。</li> <li>○5年産のびわは、冬季の低温により減収となったが、6年産はその影響もなく増収が期待されている。</li> <li>○かきについては、既存園地の改善、新たな園地での栽培実証により新規生産者の掘り起こしを通じた生産拡大を図ることを申し合わせた。</li> <li>○当室からは、今年度実施しているびわの無袋栽培や、かきの作業の省力化及び優良園地の状況について説明した。</li> </ul>		
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5月28日には、びわの出荷前の取り扱い説明会を開催し、注意点等についてJAから説明を行い、目標出荷量5tの達成に向けた確認を行った。</li> <li>○かきについては、JAと連携した巡回を実施し、カメムシの発生に応じた防除指導などを行うこととしている。</li> </ul>		
 		<p>左：かき・びわ会議 右：びわの出荷説明会</p>	


標 題	鬼北地区の認定農業者へ「スリランカ農業人材受け入れ」について情報提供	機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年5月16日	場所	JA えひめ南鬼北支所
指導対象	鬼北地区認定農業者協議会員（40人）	連携機関	(公財)国際人材育成機構、農地・担い手対策室、鬼北町、松野町、JA えひめ南、鬼北町農業公社、松野町農林公社
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鬼北地区において重要な課題となっている農業現場での労働力確保のため、同協議会へ働きかけ、総会時に「スリランカ人材受け入れ」に関する情報提供、意見交換を実施した。</li> </ul>		
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農地・担い手対策室および国際人材育成機構から、農業技能実習生の受け入れについて、愛南町における先行事例を交えて説明があった。</li> <li>○参加者からは、「1経営体で技能実習生を受け入れるには経費負担が大きいので、行政や農業団体が技能実習生を受け入れ、その後希望する経営体に派遣するような体制が取れないか」「現場でどのような作業要望がどの時期にあるのかなど、ニーズの把握が必要」などの意見があった。</li> <li>○当班では、今後も鬼北地域の労働力確保が円滑に進むよう支援を続けていく。</li> </ul>		
		<p>「スリランカ農業人材受け入れ」説明会の様子（リモート開催）</p>	





標 題	「ひめの凜」栽培研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年5月13日	場所	愛南庁舎会議室	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者（11人）	連携機関	JAえひめ南、同JA稲作部会南宇和支部、県農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○愛南地区の「ひめの凜」の高収量・高品質化に向け、栽培研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、令和5年度産の作柄状況、中干しや水管理における「ひめの凜」高収量・高品質栽培のポイント、ブランド区分によるロゴマーク使い分けの徹底、今年度の愛南町における栽培指針などを共有した。</p> <p>○また、「ひめの凜」認定栽培者に向けたリアルタイム農業普及指導ネットワークの紹介、梅雨や台風シーズンにおける農作業事故への注意喚起なども行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「移植後30日を目安に中干しを実施することは分かったが、難しい場合は何日後までなら実施しても良いか」などの質疑があり、「ひめの凜」の栽培管理について理解が深まった。</p> <p>○今後「ひめの凜」の移植がピークを迎えるため、当班では引き続き病害虫に注意しながら、個別巡回指導や穂肥診断などを通じて認定栽培者への支援に努める。</p>			
				<p>左：「ひめの凜」栽培マニュアル 右：田植作業</p>



標 題	農作業の省力化に向けたドローンによる水田除草剤の散布実証		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年5月29日	場所	愛南町菊川地区	
指導対象	菊川営農集団会員（15人）、南宇和技連作物園芸部会員（11人）	連携機関	南宇和技連作物園芸部、ドローン及び農薬メーカー	
普及指導内容	<p>○愛南町では、水稻農家の高齢化による栽培中止から大規模経営体への農地集積が進む一方で、水稻を主体とした複合経営体の労働力不足から、移植後、適期の除草剤散布が難しく、散布時期の遅延が課題となっている。</p> <p>○そこで、当班では、ドローンを利用した除草剤の散布と少量散布の場合の薬剤効果等について現地研修会を開催した。</p> <p>○地元事業者から、ドローン運航手順、散布料金等について説明後、農薬メーカーが少量散布に適した除草剤の概要を報告し、散布作業を実演した。</p>			
結果と今後	<p>○この除草剤は、拡散性が高く、250g/10aと極少量であり、散布時間は10秒/30a程度と超短時間で、参加者は「これで除草剤散布が終わるなら非常に助かる」「水田だけでなく、果樹や野菜でも利用可能であれば」などと、導入に向けて本体価格やランニングコストについても質問があった。</p> <p>○施肥や病害虫防除がすべてドローンで対応可能なら大幅な省力化が期待でき、当班では、関係団体と連携し、普及に向け稲作の省力化・低コスト栽培実証を継続する。</p>			
				<p>左：散布方法説明 右：熱心に質問する農家</p>



標 題	カキ「太秋」の安定生産に向けて調査を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年5月～	場所	カキ園地（内子町）	
指導対象	JA 愛媛たいきカキ部会「太秋」農家	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○「太秋」は良食味で人気が高く高単価で販売されているものの、着花量が不安定であることなどから安定生産が難しく、対策技術の確立が求められている。</p> <p>○そこで当班は、県内で見つけた雌花が着花しやすいとされている優良系統を接木導入し、その特性を調査している。</p> <p>○加えて当管内で単収の多い優良園地の栽培事例調査を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○導入した優良系統について、現時点では雄花の着生がなく雌花の着花量が多いことを確認した。</p> <p>○昨年単収の多かった平棚栽培園では、一般的な開心自然形に比べて着花量が多いことや摘蕾等作業時に脚立を使用する必要がなくなり省力化につながることを確認した。</p> <p>○今後も引き続き、導入系統や優良園地の生育状況等を調査し、収穫時の品質など総合的に分析し安定生産に向けた技術確立による産地育成支援を行う。</p>			
				<p>左：雌花の着花が多い系統 右：平棚園の調査</p>


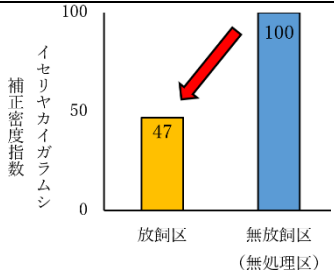
標 題	就農に向けたスケジュールを確認		機関名	八幡支局浜地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年5月27日	場所	内子町内子分庁	
指導対象	農業研修生	連携機関	内子町	
普及指導内容	<p>○ぶどう経営での新規就農を目指している内子町内の農業研修生が、来年3月末をもって研修終了となることから、来年度の就農に向けた準備事項やスケジュール及び農地情報等について、研修生、町、研修受入農家を交えて協議し情報共有した。</p> <p>○特に、スムーズな就農に向け、農地情報の収集や農地の確保、JA ぶどう生産部会加入による技術研修への参加と地域生産者との積極的な交流に取り組むよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○研修生の就農に向けた準備事項が明確となり、関係者で情報共有できた。中でも農地の確保が最重要であることから、本人と関係機関で収集した農地情報に基づき、10月までの確保を目指すこととした。</p> <p>○今後も課題や進捗状況を関係機関と共有し、円滑な就農に向けて引き続き支援を行う。</p>			
		<p>就農に向けた準備を協議</p>		



標 題	いちご部会員が天敵の防除効果を確認		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年5月22日	場所	JA 愛媛たいき	
指導対象	JA 愛媛たいきいちご部会員 (11人)	連携機関	JA 愛媛たいき、アリスライフサイエンス (株)	
普及指導内容	<p>○当班は、農産園芸課、アリスライフサイエンス (株)、(株) 金井商会の協力のもと、ハダニ天敵防除を (株) Pi-Nokyo たいき実証ほ (高設栽培面積：7a) で実証しており、防除効果について検討した。</p> <p>○11/21 にミヤコカブリダニ、3/5 にチリカブリダニを天敵として放飼したことに加え、天敵に影響の少ない農薬を組み合わせた体系防除を行い、ハダニの発生を最小限に抑えたことなど、6か月間の実証ほでの実証・調査結果を説明した。</p> <p>○また、アリスライフサイエンス (株) は、肉眼では見ることが難しい天敵の捕食動画やアザミウマ・コナジラミ等天敵資材を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○天敵を導入した結果、農薬の散布回数が最大8回から3回に削減でき、部会員は農薬コストや散布労力の軽減を期待し、天敵の導入に意欲が見られた。</p> <p>○今後は、育苗期から天敵等を利用した新たな防除体系を実証する。</p>			
				天敵導入について検討



標 題	内子町青年農業者、遊休農地再生プロジェクトを始動！今年はイノシシ対策も万全に		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年5月21日	場所	内子町内子 現地圃場	
指導対象	内子町青年農業者協議会員 (11人)	連携機関	内子町農村支援センター、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○当会では、新規就農者のための農地確保を目的に、遊休農地を再生利用するプロジェクト活動に取り組んでおり、当班は、その一環として焼き芋販売を見据えた、さつまいも苗の定植作業を指導した。</p> <p>○また、獣害対策として電気柵の設置が初めての会員に対し、ワイヤーを適切な高さに張ることや、アースを電柵付近の水気のある地面に埋めるなど、侵入防止効果を最大限に得る設置方法について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○4品種 (「ベニアズマ」、「金時」、「シルクスweet」、「ベニハルカ」) を斜め植えと水平植えで10aを植え付け、植え方の違いによる規格、収量等を調査する。</p> <p>○イノシシ被害対策として設置した電気柵の防護効果を維持するため、除草作業等を実施するなど、会員間で定期的に管理することを申し合わせた。</p> <p>○収穫後は、規格別収量や食味調査、焼き芋販売での消費者アンケート等を実施し、当地で焼き芋に最適な品種を検討することとしている。</p>			
				<p>左：平植え方法の指導</p> <p>右：電気柵の通電確認</p>

標 題	西予市の若手女性農業者組織活動拡大中！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年5月22日	場所	西予市狩江地域づくり活動センター	
指導対象	西予管内若手農家女性（11人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○当班では、昨年5月に誕生した若手女性農業者組織「フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～」の活動を支援している。</p> <p>○組織拡大に向けた仲間づくりのほか、交流活動、研修会、ネットワーク化等を実施している同組織では、この度、新たな取組として、リーダー育成のための農業経営研修を行うことを申し合わせた。</p> <p>○また、農業女子としての夢やグループに期待することなどの意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○明浜地区のかんきつ農家8名でスタートした同組織は、三瓶・宇和地区にも広がり、メンバーも11名（平均年齢35歳、20歳代4名）に増えた。</p> <p>○また、県の一次産業女子ネットワーク「さくらひめ」に9名が加入し「今まで家にこもりがちだったが新しい世界が広がった、楽しい」といった声が聞かれるなど、ネットワークの輪が広がっている。</p> <p>○今後も、組織活動強化に向けた取組や、補助事業の活用支援等を行っていく。</p>			
				<p>左：今後の活動等意見交換 右：参加メンバー</p>

標 題	かんきつ生産者がアシストスーツを着用体験		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年5月10日	場所	西予市三瓶町朝立	
指導対象	三瓶町認定農業者組織会員(23人)	連携機関	西予市、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○農作業の軽労化が期待されるアシストスーツについて、特徴や使用方法について紹介するとともに、参加者による着用体験を行った。</p> <p>○また、使用した感想や意見等を収集するため、当班が所有するアシストスーツの貸出を行うことを呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○体験者からは「背中や腰が引っ張られ、支えられている感覚がある」といった感想が得られるなど、アシストスーツに対する興味を喚起することができた。</p> <p>○今後も体験する機会を設けるとともに、生産者への貸出を行い、アシストスーツの導入・普及に役立てる。</p>			
				<p>左：アシストスーツの概要説明 右：生産者の着用体験</p>

標 題	フィンガーライムの重要害虫を有力天敵で半減に成功！		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年4月30日～5月10日	場所	八幡浜市	
指導対象	フィンガーライム生産者	連携機関		
普及指導内容	<p>○フィンガーライムハウスで多発した重要害虫であるイセリヤカイガラムシを防除するため、有力天敵であるベダリアテントウを採取・放飼し、防除効果を検証した。</p> <p>○フィンガーライムは、4月から新たにかんきつ登録農薬が利用できるようになったが、農薬散布後のリサージェンスを回避するため、農薬ではなく天敵の利用を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○天敵放飼区では、無放飼区と比べて害虫の密度が半減した。</p> <p>○ただし、採取した天敵の動きが鈍く、奇形個体も見られ、採取場所での農薬の悪影響が考えられたため、供試天敵の再採取などにより効果を再検討する。</p> <p>○今後は、再検討の結果も踏まえ、フィンガーライム産地化推進協議会員へ周知し、実用化を検討する。</p>			
<p><b>【リサージェンス】</b> 散布した農薬が、土着天敵へ影響するなどして、害虫密度が散布前よりもかえって高まる現象。</p> <p><b>【補正密度指数】</b> 農薬の効果を評価する指数の一つ。無処理区を常に100とし、値が低いほど効果が高い。</p>				<p>イセリヤカイガラムシ成虫を捕食するベダリアテントウ幼虫</p> <p>ベダリアテントウによる防除効果</p>

標 題	普及指導員が若手職員とのコミュニケーションや育成手法を学ぶ研修を実施		機関名	農産園芸課 企画調整グループ
年月日	令和6年5月31日	場所	えひめ中央農協みなとまちまってる	
指導対象	若手職員のインストラクター 普及指導員研修情報委員等 (28名)	連携機関	県普及指導員研究協議会	
普及指導内容	<p>○新規採用職員や退職者の増加により普及職員の世代交代が急速に進む中、世代による考え方等の違いを理解し、全ての職員が能力を発揮できる働きやすい環境づくりのため、県普及指導員研究協議会との共催により、若手職員のインストラクター等を対象とした職員育成力向上研修を実施した。この研修は、昨年度から実施しているもの。</p> <p>○今回は、(株)エンカレッジの玉野聖子代表取締役から、イマドキの若者の考え方やコミュニケーションの基本、ポジティブな声かけについて、また、県普及指導員研究協議会の大内義典会長から、OJTのポイントやトレーナーの心得について実践を交えながら指導を受けた。</p> <p>○グループに分かれての意見交換では、参加者が業務の中で対応に困っている事例について話し合い、解決策を参加者全員で共有した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「新たな視点で若手職員と接することができそう」「働きやすい職場づくりには、相互理解が重要であることを改めて感じた」といった感想が聞かれた。</p> <p>○今後も、県普及指導員人材育成方針に基づき、次世代の普及指導員の育成を図るとともに働きやすい環境づくりを進める。</p>			
				<p>左：大学生とのエピソードに触れながらイマドキの若者について説明する玉野代表</p> <p>右：長年の若手育成の経験に基づきOJTのポイントを説く大内会長</p>

標 題	第2回さといも優良種芋増殖技術講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年5月16日	場所	農林水産研究所 野菜花き調整室	
指導対象	さといも技術指導者（17人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○優良さといもの効率的な生産と更新を図るため、農林水産研究所が開発した「さといものセル苗による優良種芋増殖技術」について、講習および実技指導を実施した。</p> <p>○栄養繁殖性で自家増殖が容易なさといもについて、種芋更新の重要性や必要性を周知した後、4月に伏せ込んだ親芋から副芽を切り出し、セルトレイ（50穴）へ移植する手法について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の講習会では、さといも優良種芋増殖技術のうち、副芽のセルトレイへの移植までの技術を身に付けることができた。</p> <p>○今後も生産現場や関係機関等と連携し、優良種芋増殖技術の定着による種苗生産体制の確立を目指す。</p>			
				<p>左 副芽の切り出し</p> <p>右 副芽をセルトレイへ移植</p>

標 題	麦の採種ほ審査（Ⅱ期）の実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年4月30日、5月1日	場所	中予管内採種ほ場（170ほ場）	
指導対象	伊予地区種子生産協議会	連携機関	JA（全農、えひめ中央、松山市） 中予局産業振興課、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○麦の優良種子生産のため、松前町と伊予市に、奨励品種「ハルヒメボシ」の採種ほ場を設置している。今回はⅡ期審査として、糊熟期に各ほ場を巡回してほ場審査し、最終的な合否判定を行った。</p> <p>○後日、審査結果と各ほ場の収穫時期を関係機関と共有し、今後の収穫及び共同乾燥調製施設への搬入時期について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○雑草害、病害、湿害により、一部のほ場が不合格となった。検査結果と指摘事項については、JAを通じて同会員に周知し、今後の改善を図っていく。</p> <p>○今後の天候を勘案しながら、計画的に、収穫及び共同乾燥調製施設への搬入を行うことを申し合わせた。</p>			

**【県主要農産物採種事業】**

主要農産物の優良種子を安定供給するための措置。うちほ場審査は、種子検査員（農産園芸課、中予局産業振興課、農林水産研究所職員）が、種子生産者、県米麦振興協会、JA 立ち合いの上、実施している。



雑草害（カラスノエンドウ）



病害（黒穂病）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543